

高校生の sense of coherence を左右する小・中学生時の経験とは

016

とがりたいすけ
○戸ヶ里泰典¹、山崎喜比古²、佐藤みほ³、小手森麗華⁴、
米倉佑貴⁵、横山由香里⁶、木村美也子⁷

1 放送大学、2(財)パブリックヘルスリサーチセンター、3 東北大学大学院医学系研究科、4 中央大学附属高等学校・中学校、5 東京大学社会科学研究所、6 日本学術振興会、7 東京大学大学院

【背景】思春期にある高校生は身体的変化に加え自我意識・社会的意識が発達し、不安・いらだち・反抗など精神的動揺が著しい時期であり、この時期が端緒となり今後の問題行動につながっていくものも少なくないといわれている。こうしたストレスフルな環境を成功的に乗り越えていくための力として、sense of coherence (SOC)が挙げられる。

SOC とは、ストレス対処機能、健康保持機能を持つ、生活世界の見方・考え方に関する概念である。具体的には、世界が首尾一貫している、筋道が通っている、わけがわかる、腑に落ちる、と言う感覚であり、自分の内的・心的な環境だけでなく、外的な周囲の環境も一体化した感覚という点で特徴的な概念である。SOC は、生物学的因子・生活環境・社会関係など、その人が保有する汎抵抗資源によって規定される生活・人生経験を通じ、それが良質であると形成が促されると言われている。

そこで、高校生の SOC を規定する小中学生時の人生経験について探索的に明らかにすることを目的とする。

【方法】対象と方法：2007年5月(時点1)および11月(時点2)に、都内私立高校の全校生徒1539名を対象として自記式質問紙調査を実施した。時点1および時点2に回答した1444名(有効回答率93.8%)を分析対象とした。分析で使用した変数：小学校高学年時の意思決定参加経験(友人関係「友達と何で遊ぶかを考えているとき」など)、学校「スポーツや音楽の合奏・合唱の時のポジションやパートを決めるとき」など、家庭「家で、あなたの進路(中学校)を決めるとき」など(時点1)、13項目5件法版 SOCスケール(時点2)、小学生時、中学生時における成功経験(学業、スポーツ、芸術、部活・クラブ活動、友達との関係、いじめられた経験)(時点2)であった。分析方法：性別に、学年を共変量とし、各経験を独立変数、SOCを従属変数とした共分散分析を行ない、統計学的有意水準は

5%とした。

【結果】小学校高学年時の意思決定参加経験については、男女共通して、「友達と何で遊ぶかを考えているとき」「友達同士でどこに遊びに行くかを考えているとき」「友達同士で遊んでいて、新しくルール(順番交代のルールなど)を作るとき」「スポーツや音楽の合奏・合唱の時のポジションやパートを決めるとき」「(運動会や学芸会を含む)大会やコンクールでの種目や曲目を決めるとき」「委員長やリーダー、議長、班長など代表者を決めるとき」「運動会や発表会や学芸会などでグループやクラスごとで出し物を考えるとき」「クラスや委員会、クラブの活動目標を決めるとき」「家で、家族旅行の旅行先を決めるとき」「家で、あなたの進路(中学校)を決めるとき」に参加しているほど SOC が高くなっていた。ただし、「家で、あなたが習い事やけいこ事や通信教育を新しく始めるかどうかを決めるとき」など、家庭における経験は女子のみで関連が見られた。また、小中学生時に男女共通してスポーツが得意であった、友達とうまくやっていたほうであったほど、SOC は高く、いじめられた経験があるほど SOC が低かった。勉強、芸術面では、男子で中学時代のみ、部活動は小学生時、男子で中学時代のみで差が見られた。

【考察】今回検討した意思決定への参加経験、成功経験があったことは高校生時の SOC が高いことにつながる可能性があることが明らかとなった。その一方で、関連が見られない経験も見られており、全ての経験が重要ではない可能性もわかった。今後は縦断的なデザインおよび他の対象について検討すると共に、効果的な学校環境整備や運営方策の開発に向けた検討が望まれる。

学校関係者の参加をお願いします。

(連絡先) 戸ヶ里泰典 ttogari-ky@umin.ac.jp